

## 神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開催日時	令和6年10月29日(火)		
開催場所	神奈川県立麻生支援学校会議室		
(役職名) 出席者	(副会長)岡本委員、久保田委員、品川委員、谷委員、山口委員、小林委員、伊藤委員、山崎委員 <学校職員> (副校長)山岸、(教頭)原島、石上、(事務長)江藤、(総括教諭)宮澤、風間、杉本、土肥、堀井、栗澤、小川、鈴木		
欠席者	佐藤会長 石垣委員		
次回開催予定日	令和6年2月17日(月) 予定		
問合せ先	所属名：麻生支援学校、担当者名：原島 典子 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	<p>1 開会</p> <p>2 校長挨拶 (麻生支援学校 山崎校長) 副会長挨拶 (岡本委員)</p> <p>3 委員紹介及び自己紹介 (品川委員) と欠席者連絡</p> <p>4 &lt;学校評価部会&gt;</p> <p>(1) 令和6年度中間報告について、山岸副校長より資料に沿って説明。          視点1①：発達段階や障害の情報について内外部の専門職と連携して研修及び教材教具の工夫に努めた。          視点1②：一人ひとりにあったアプリの導入やオンラインでの合同授業など、各学部や各分掌におけるタブレット端末を活用した事例を挙げた。          視点2：いじめアンケートの実施状況について説明。検討委員会で共有。          視点3：進路先の見学会や保護者向けの進路学習会について、設定内容を工夫して実施し、その効果について説明。          視点4と視点5：「切れ目ない支援部会」「学校設置部会」と重複する内容として省略。</p> <p>(2) (1) について御意見・御質問 (○委員、●学校関係者)          ○具体的なタブレットの活用について、個人の調べたことを発表するツールとなっていることは評価できる。子どもたちにとって自分を表現することはつながりの第1歩。高等部と分教室がつながったことはとても良いこと。社会の中で出会う人たちとのつながりももちろんだが、学校の中で分教室との出会う機会が体験できたことはとても大きい。          ○進路について。川崎の場合は必ず見学・実習がある。その時に相談員が使われていない。システムをもう少し変えてはどうかということが挙げ</p>		

っている。特に県立の支援校と川崎市、なかなかうまくいかない。事業所の情報を早めに伝えることができるとうい。

- 相談員に関しては、セルフプランで進めていくことが多い。卒業間近になって相談員をつけていくという形がほとんど。今後相談員をつけながら、一緒に就職先も考えていくアナウンスをしたり、説明会をしたりすることが必要になると思う。相談員を入れて、一緒に進路をサポートしていくほうが、今後につながりやすいと思う。
- 事業所について、PTAの方でもA部門の方の情報がかうまく伝わっていない。事業所の方に来ていただいて、説明会や相談会を年度内にできればよいと考えている。

#### 5 <切れ目ない支援部会>

(1) 「つながるあさおプロジェクト」の中間報告について総括教諭より説明。後期も継続して地域の力を借りながら、実践的な学習を進めていきたい旨を説明。

#### (2) 意見交換 (○委員、●学校関係者)

○夏の麻生ゼミについて。近隣の学校の先生も参加ということだが、これまでもそういうことがあったか。

●今年度初めて。

○麻生の生徒たちをよりよく見ようとそこにばかり注目していると、視野が狭くなる。他の教育者たちとともにというのは先生たちにとっても発見もある。いい研修を行った。

●学校の中において、教材教具展を開催している。また、研修会の機会を設定し、学びを深めている。地域の先生方にもぜひ見て学んでほしいということで、地域の小中学校に向けて発信する取り組みになっている。このことに関しては、川崎市教育委員会に向けてもご案内いただくよう働きかけている。

●今年は外部から6人、校内が20数名。大体30名程度で実施。募集期間が急になってしまったためなかなか集まりきらなかった。次年度はあらかじめ計画し宣伝できればもう少し集まると思う。

●参加人数を伸ばしていくことが課題。それには市町村の教育委員会の方に働きかけや先生たちが学びやすいようにしてもらいたいと思っている。

○麻生の先生がリーダーになっていくことは必要なこと。状況に合わせた対応、工夫というものを共有することによって一緒に乗り越えていけるのではないかと思った。すごくよい取り組みでぜひ広がってほしい。

○たまフレにて、学校の先生方の研修として1週間ほど、多摩市の桜ヶ丘学園の先生に来てもらったことがある。先生の研修の場として、企業や事業所や保育施設も含めていると検討されてはどうか。

●教員が民間で研修をすることはいろいろある。長期だと1年間の民間企業派遣など。それが特別支援学校だと年に1人。あとは教員の研修体系の中で、年次研において体験を行う機会もある。受け入れてくれるところをもっとあるとういと思っている。

○学校側としても、休みではなく、しっかりと研修として使っていく仕組みができるとよい。それは一過性のもではなく、定期的にこの時期のこの期間を行うなど決めることで、受け入れがしやすくなると思う。

●長期休業期間中など、教員も行きやすいとは思うが、夏季、冬季休業中に受け入れていただけるようなことがあれば情報をいただけるとありがたい。

○王禅寺町内会、年1回の木工教室。青少年部の方も大勢参加してくれた。大変喜んでいた。

●地域の方々と交流できる素晴らしいものであった。こちらは場所をお貸しして参加させてもらおうということではあるが、ぜひ続けていただきたいと思っている。

## 6 〈学校設置部会〉

### ①スクールバス地域救援部会

- ・防災パートナーシップに関する相談について、前回の情報を基に進めている。
- ・パートナーシップでどういうことを行っているかという質問について、スクールバスのルートの説明や子どもたちが災害にあったときには助けていただきたい、ご協力をお願いしたいなど、近隣の大学や高校にお話をもっていっている段階。茅ヶ崎支援学校がすでに地域の援助依頼を進めているということで本校も参考にしている。
- ・こども文化センターより。ルートにセンターが多数あるので利用してもよいのではないか。麻生区にはセンターが8館ある。有効な情報をいただいた。今後連絡を取っていきたい。
- ・「小中学校は校庭が広いのでそちらにも声をかけてみては」「道路が狭いところもあり、現在スクールバスが止まっているところから少し歩いて行ける場所でもよいのでは」など、もっと近隣の情報を集めていってもよいというご意見もあった。
- ・見てわかるようなマークがあると、コンビニなどに貼り、話もスムーズにいくかと思われる。子ども110番のようなステッカーを作り、貼っていただける場所を探していけるとよい。
- ・最近、スクールバスの「支援員さん募集」の張り紙を見て、声をかけてくださる方もいる。「何かあったら助けをお願いします」などアピールできるものもあってよいか。

### ②丁寧なかかわりのスタンダード部会

- ・現在、記述式のアンケートとして作成している。保護者の方の生の声を伺いたいということでこのような形にした。このような方法ももちろんあるが、まずは保護者が答えやすいものになっていること、また集計しやすいものであること、例えば選択肢をいくつか設けることや答えやすいようにキーワードを導入するなどがあってもよいというご意見があった。
- ・多くの字があると答えづらくなってしまうため、簡略化し答えやすい質問を作る。
- ・参考回答時間を書いてはどうか。

## 7 副会長の言葉

中間報告より、結果が出てきていると感じている。その中において、今を反映している「SNS」という言葉が多く出てきている。このことについての問題点に取り組んでいただいていることは非常に良いこと。また、生の声が成立することで発展させていったこの2つの部会。ある程度整理もついてきつつある。さらに発展させていけるとよい。

## 8 追加資料の報告と次回の日程確認

公開授業研究報告会のチラシ。ご意見をいただく場として、1月29日（水）に行わせていただく。QRコードから入り、申込。第3回の実施は2月18日（火）と伝えていたが急遽変更させていただきたい。改めて候補日を挙げて連絡させていただきます。

## 9 校長の言葉

「児童生徒への丁寧なかかわりのスタンダード」について、今年度は新たに保護者アンケートを取るようになったが、実際にアンケートを答える立場として、あるいは保護者の視点でご意見をいただきありがたかった。キーワードの設定や答えやすさ、答えに要する時間について等、我々が気が付かないところ

に気が付いていただいた。今後も工夫しながら取り組んでいく。

発災時のスクールバスの支援、一時避難、一時支援については、パートナーシップをという話も出たが、徐々に広げていきたい。スクールバスが「今どこにいる」という情報を我々が把握できるということも大きい。いる場所がわかれば応援に駆けつけることもできる。前回の話の中では川崎市立の特別支援学校や東京都の特別支援はスクールバスに GPS 機能が付いていて、今どこを走っているのかわかるような機能がついているという話を伺った。学校においても、どのくらいの予算で導入できるのか調べている。発災時のみならず、夏場の炎天時に待つ利用者のことを考慮し、有効に使えるのであれば、学校だけの取り組みではなく県全体で教育委員会にも投げかけながら、(県内の特別支援、) 県立の特別支援すべてに導入できるとよいかと考え、校長会では話をしてみたい。このような動きはこの麻生支援学校の学校運営協議会からの発信だと思っている。

1 回目の協議会から本日の協議会の間においても様々な助言・提案をいただき、学校も反省をしながら取り組みはじめ、これまで進めてきた。今回も協議いただいたことについて、3 月まで時間はあるが、気づいたこと、このようなことだったらお手伝いできますということがあれば、声をかけていただき、助言、アドバイスをいただければと思う。

10 閉会

以上